令和５年度　算数　授業改善推進プラン

大田区学習効果測定　結果の分析

４年生…校内平均正答率が目標値・区平均・全国平均を下回った。基礎・活用において目標値・区平均・全国平均を下回る。問題内容別に見ると、「大きい数・小数・分数」「たし算・ひき算」については目標値に達しているが、「かけ算」「わり算」「□を使った式」などのそれ以外の内容については、目標値に達していない。

５年生…校内平均正答率が目標値・区平均・全国平均を下回った。基礎において目標値・区平均・全国平均を下回る。活用においては、目標値には達していたが、区平均・全国平均は下回る。問題内容別に見ると、「面積」については目標値に達しているが、それ以外の内容については、目標値に達していない。

６年生…校内平均正答率が区平均を下回った。基礎・活用において区平均を下回る。問題内容別に見ると、「分数の計算」「円グラフや帯グラフ・平均」について特に大きく目標値を下回っている。それ以外の内容については、目標値に達している。

【観点別正答率の分析】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
４年生と５年生の正答率は目標値を下回っている。 ４年生は、整数―小数第一位を求める問題や□を使って乗法の式に表す問題やボールが２個入った箱の辺の長さから，ボールの半径を求める問題で正答率が低い結果となり課題が見られた。５年生では、概数に対応する数の範囲を求める問題や伴って変わる二つの数量関係を式に表すこと問題や直方体にある辺に平行な辺を求める問題で、正答率が低い結果となり課題が見られた。６年生では、小数と分数の大小比較を求める問題で正答率が低い結果となり課題が見られた。	４年生と５年生の正答率は目標値を下回っている。 ４年生は、２８×７を工夫した計算のしかたを説明する問題やかけ算の筆算に出てくる数の意味を求める問題やミリがついた単位を 1000 倍すると，１ｍｍが１ｍ、１mL が１L、１ｍｇが１ｇでミリが取れることの説明で正答率が低い結果となり課題が見られた。５年生では、はがきのおよその面積を選ぶ問題や切り捨てて計算した結果が目的に合う理由を説明する問題で，正答率が低い結果となり課題が見られた。	５年生の正答率は目標値を下回っている。 ４年生は、道のりをもとめることができるが，どちらの道のりの合計が短いかを説明する問題で，正答率が低い結果となり課題が見られた。５年生では，切り捨てて計算した結果が目的に合う理由を説明する問題や，複合図形で，２つの図形の面積が同じになる理由を説明する問題で正答率が低い結果となり課題が見られた。６年生では、与えられた情報を読み取り，基準量と割合からもとめた比較量を比べ，発言が正しい理由を説明する問題や図に示された四角形の内角の和の求め方を説明している問題で正答率が低い結果となり課題が見られた。

課題〈今回の調査結果から〉

〇知識・技能に対しては、基礎・基本をきちんと定着していけるように、東京ベーシックドリルを活用して児童の学習の定着状況を把握していくとともに、児童の習熟の程度に応じて、補充学習・発展学習等に取り組ませていく必要があると考える。

〇４年生は、「かけ算」「□を使った式」「長さ・重さ」５年生は、「わり算・計算のきまり」「いろいろな形」「面積」、６年生は、「割合」「円グラフや帯グラフ・平均」など、各学年で苦手な傾向が異なっているので、焦点を絞って、補充学習を行い、練習問題にもくり返し取り組んでいく必要がある。

〇結果の分析から計算の仕方や意味を説明する力をつける指導をしていく必要があるように見受けられる。
〇授業で学習しているときはよく理解できているように教師も児童も感じる場面も多いが、その単元の学習後、しばらくすると解き方や考え方を忘れてしまうことがある。定着を図るために、タブレットのドリル学習を活用して習熟を図ったり、日頃の家庭学習で学習を振り返ったりする機会を設ける。
〇自分の考えをノートに書いたり、発表したりして表現することについては積極的でない児童も見られ課題があると考えられる。調査結果からも記述式の問題においては無回答の児童が多いものも見られ、基礎・基本の定着とともに、主体的に取り組む態度を育てていくことも課題となる。教材の工夫や環境づくり、学習過程等の工夫を行いながら指導をしていく必要がある。